

「夏に出てくる虫へ」

第2回 KYOTO KAKIMOTO 恋文大賞®

手紙(文章)部門 <高校生の部>

梅雨が明けたと思ったたら、毎日毎日茹だるようなこの暑さ。

僕たち人間はなげなしの電気をフルに使って、なんとか日々を過ごしています。
しかしあなたたち虫にとつては関係ないようですね。

この暑さで少しはべばつているのかな、と思ったのですが、そんな事は全くありませんでした。
むしろ、やつと長い冬が終わって、ここぞとばかりに活発ですね。大いに結構です。
しかしね、一つだけお願ひさせて下さい。うちの中には入らないで下さい。

外で見る分には良いのですが、中でばつたり会うと少しばかり印象が違つてきます。
捕らえなくてはならなくなるのですよ。

もちろん、あなた方が何をした訳ではありません。

ただ家中に入つてしまつただけですね、分かります。
僕もたまにしてしまいます。

場違いな高級なお店とかに入つて後悔することもしばしばです。

お互に今後気を付けていきましょう。

まあしかし驚くものです、急に現れるものですから。今日も一匹ゴキブリを捕まえました。

別に何かされた訳ではありません。非常に申し訳ないです。うそです。少し申し訳ない気持ちです。

僕たちが勝手なのは分かつていますが、お互いのためにも、なるべく会わないようにしましょう。

万が一ばつたり会つてしまつたら、あの先の読めない素早い動きはやめてください。あれが一番苦手です。

まあお互い精一杯生きていることは認め合いましょう。

食べるため一生懸命働いて生計を立てているのは同じです。

お互いに尊重し、なるべく会わないようにするのが最善です。

さあ、この暑すぎる夏、何とか乗り切つて来年また元気な顔で会いましょう！